

2016年5月31日 第15回上田市公共交通活性化協議会

会長あいさつ 上田市政策企画部長 西入会長 (以下 西入会長)

変更役員紹介 事務局 上田市政策企画部交通政策課 高木課長 (以下 高木課長)

議題

(1) 平成27年度決算報告について

事務局 (上田市政策企画部交通政策課 竹花主事 以下 竹花主事) 資料1 資料説明

ア 平成27年度会計監査報告

事務局 (上田市政策企画部交通政策課 朝日係長 以下 朝日係長)

※橋詰監事が未到着の為、代理で事務局が行う。

質疑応答 なし

承認

(2) 平成28年度予算(案)について(資料2)

事務局 (竹花主事) 資料2 資料説明

質疑応答

(質問1)

平成27年度決算について、項目にまちなか循環バスとあるが使い道はどのようなものか。

(回答1: 事務局 竹花主事)

ポスターや駅前のタペストリー等の印刷物やインターネット上でバスの走行位置を確認できるバスロケの導入などに使った。

(質問2)

今年は、まちなか循環バス関係では事業は行わないということによろしいか。

(回答2: 高木課長)

印刷物等は昨年行ったので、それらのものについては行わない。

(質問3)

今年は、国の補助金(前年4,289千円)は無いのか。

(回答3: 事務局 朝日係長)

4,289千円は「公共交通網形成計画の素案作成」に対する補助金であり、今年は補助対象となる事業はないので国の補助金はない。

承認

(3) 運賃低減バス運行計画について

事務局（高木課長） 経過説明

H25年10月に運行を始め、今年の9月で期限の3か年を迎えるが、輸送人員も増えてきており、市としては今後も定期的に乗降調査やアンケート等を行い利用目的等を検証しながら、更なる利便性の向上や輸送人員の増加につなげていきたいため、実証運行を継続していきたいと考えている。

事務局（朝日係長） 資料3 資料説明

H25.10月より運行を開始し、現段階では実施前と比較し1.22倍増。

最終目標の1.5倍増には達成が難しくなってきたが、右肩下がりであった輸送人員が現段階まで回復してきたことは、市民の公共交通への関心が高まってきている証拠であり、また、高齢化が進む中、公共交通の必要性も高まっている中、これを確保、維持していくことは重要であることから、継続実施していきたい。

基本的な計画は、H25年度の開始時と同様。輸送人員も1.5倍増をめざす。

質疑応答

（質問1：上田電鉄 関部長 以下 関部長）

ダイヤ改正は今すぐではなく、今後実施していくということによろしいか。

（回答1：事務局 朝日係長）

今後継続した中で、1年毎、路線ごと見直しを行っていく。

（要望1：関部長）

塩田線の上田～別所間は別所線と競合しているため、増便の時は事前協議してほしい。

承認

(4) 地域間幹線系統確保維持計画について（資料4）

事務局（朝日係長） 資料4 資料説明

今回は平成29年度（平成28年10月～平成29年9月）の計画について協議する。

車両購入計画あり・・・菅平線（上田バス）

協議していく点

1. 幹線系統の確保維持が必要か。
2. 幹線系統が利用者のニーズを反映しているか。

複数の市町村にまたがっているため、関係市町村でも協議しており、協議が整うと、→長野県へ提出→長野県活性化協議会で協議し承認→国へ提出し認定をもらう

運行事業者の説明

上田バス 船見常務（以下 船見常務） 35ページ～各系統ごと説明。

千曲バス 三浦営業部長 (以下 三浦部長) 41 ページ～各系統ごと説明。

千曲バス 佐久上田線について

平成 28 年 3 月に上田市へ廃止の申し入れを行った。

全体で 8 系統 (上田市は 2 系統)。平成 25 年～平成 27 年の 3 カ年で約 45,000 千円～49,000 千円の赤字を計上しているため、今後、自主運行していくことは厳しい。

申し入れの際に上田市や県および沿線自治体 (東御市、小諸市、佐久市) より利用者の足として残してほしいと要望あり。

補足説明 (事務局 高木課長)

上田市としては、利用者が少なくない路線のため、補助していく考えでいる。

しかしながら、複数の自治体 (東御市、小諸市、佐久市) にまたがっている路線のため、上田市単独での補助は難しい。

現在は、関係自治体と協議中である。仮に廃止が決定した場合、再度協議会を開催する。

質疑応答 なし

承認

(5) 上田市生活交通確保維持改善計画 (地域内フィーダー系統確保維持計画) について (資料 5)

事務局 (朝日係長) 資料 5 資料説明

久保林線 (上田バス) が新たに加わる。

資料 5-1 交通不便地域指定申請も同時に進めている。

協議していく点

1. 地域内フィーダーの必要性。
2. 今後の維持存続の必要性。
3. 運行形態が利用者のニーズに合致し、地域に適した内容になっているか。

事業者の説明

船見常務 事業の目標、効果等の説明。

久保林線について

新たに新設。平成 28 年 11 月 1 日運行予定。

オレンジバスが周辺を通っているが、久保林地区の上側を走っているため、地域に公共交通がなく、不便な地域。

地域住民の要望を吸い上げ、久保林公民館～上田駅間を運行する。

千曲バスと路線が被るが、通勤・通学の時間帯ではなく、あくまでも地域住民の足として運行する。

※1 日 8 便。12 月 31 日～翌年 1 月 3 日まで運休。

三浦部長 事業の目標、効果等の説明。

質疑応答

(質問 1：国交省北陸運輸局 坂本専門官 以下 坂本専門官)

久保林線について、なぜバス年度開始の 10 月 1 日からではなく、11 月 1 日からなのか。

(回答 1：上田バス 船見常務)

現地は道が狭く、誘導員をつけることも検討している。その他、調査等の関係で 10 月からの運行には間に合いそうもないため。

(質問 2：上田市自治会連合会 林代表 以下 林代表)

交通不便地域申請について、①補助金は幾らもらえるのか。②その補助金でどんな事業を行うのか。

(回答 2：事務局 朝日係長)

①金額は未定。②東塩田線の運行補助。

(質問 3：林代表)

交通不便地域について、補助金を受けるとのことなら、指定している地域でバスが運行していない奈良尾などの地域に使わないのか。

(回答 3：事務局 朝日係長)

指定した範囲の中に、新たにバスルートを設定するのではなく、東塩田線が交通不便地域のエリア内を運行しているため、東塩田線の運行補助にあてるといふもの。

(質問 4：林代表)

交通不便地域の指定地域である古安曾や富士山は東塩田線のルートの中に含まれていないのでは。

(回答 4：坂本専門官)

資料に示してある、黒丸の中に東塩田線のルートがあり、交通不便地域の指定を受けて補助を受けるときは、交通不便地域を含む路線という見方をする。そのため、東塩田線は補助対象になる。

承認

(6) 夏休みキッズパスについて (資料 6)

事務局 (峯村主事) 資料 6 資料説明

質疑応答 なし

承認

(7) その他

ア. 千曲バスの佐久長野高速バス廃止について

事務局 (朝日係長)

佐久上田線同様に平成 28 年 3 月に千曲バスより廃止の申入れがあった。

複数の市町村にまたがっているため、関係自治体と協議し、結論を出す。

今後は協議会で報告する。

イ. お知らせおよびお願い

坂本専門官

平成 28 年バス年度より、地域内フィーダー系統確保維持費補助金は、年間で一運行あたりの平均乗車数が 1.0 人未満の路線は補助対象外になることが決定した。この背景には、補助を申請する自治体や事業者が増加傾向にあるためである。上田市の場合、お屋敷公園線・東塩田線（2 系統）の合計 3 系統が平成 27 年度の実績で 1.0 人を下回っている。平成 28 年 9 月までの実績で下回っていると補助が受けられなくなる。利用促進についてやっていただきたい。

※参考：長野県全体で補助を受けているフィーダー路線は 319 系統あり、そのうち 15 系統が平成 27 年度の実績で 1.0 人を下回っている。上田市は 3 系統含まれている。

今後、国としては乗っていないバス路線については補助を控える方針。

質疑応答 なし

閉会 西入会長お礼

以上